



南極ものがたり

No.2



◆ 出発式

12月2日（水）。いよいよ出発です。16時に成田空港集合。搭乗手続きの後、出発式がありました。文科省・海洋地球課の山口茂課長補佐、極地研の野木義史副所長のご挨拶に続き、第57次隊を代表して門倉昭隊長が、関係各位への御礼、隊員を支えてきた家族への感謝、そして任務遂行の強い決意を述べられました。

式の後、隊員の子どもさんの誕生が披露されました。越冬隊・設営の久保田寛丈隊員です。11月27日生まれの女の子で、名前を「真央」と名付けられたそうです。初めてのお子さんであり、久保田隊員は、「帰国後の成長を楽しみにしたい。安全にはより注意して任務を果たしたい」とおっしゃっていました。第57次隊には他にも任務期間中にお子さんが誕生される方が何人かいらっしゃるようです。

家族や職場関係などたくさんの方々がお見送りに来ていました。日本を長期間離れること、医療の限界や厳しい自然環境での仕事など、家族の方々には不安が尽きないのでしょう。特に、越冬隊員は1年4か月も日本を離れます。涙を流す家族に見送られながら旅だった隊員の方もいました。職場の使命を背負って、家族の思いを感じての出発です。

この日、我々に早く来いと言わんばかりに「しらせ」がフリーマントルに入港しました。

ここで一句 「夢を乗せ師走の空へ JARE57」



2015.12.2



2015.12.3

◆ フリーマントルへ向けて

第57次隊は、成田からブリスベン経由でパースへと空路で向かいます。パースからはバスで「しらせ」が停泊中のフリーマントルへ移動しました。ブリスベンは日本より+1時間、パースは-1時間の時差があり、途中、何時間航空機に乗っているのかわからなくなりました。成田を19:30に出発し、フリーマントル到着は翌3日の14時（現地時間13時）でした。正直、きつい空の旅でした。写真はパース到着時の一枚です。

オーストラリアは真夏。フリーマントルの気温は32℃、やや蒸し暑く、太陽はほぼ天頂に位置していました。

パースから夏隊、越冬隊に分かれて2台のバスでフリーマントルへ向かいました。パースの美しい街並みを車窓から眺めながら走ること1時間、港に停泊中の雄大な「しらせ」が突然姿を現しました。3週間ぶりの再会です。港は、心地よい風が吹いていました。

海上自衛隊の方々が見守る中、「しらせ」に乗艦しました。

いよいよ、南極観測船「しらせ」での活動が始まります。